

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

作成者：山根亜希子

○9月30日～

先週は円安が進行していましたが週末の自民党総裁選でまさかの石破氏が決選投票で選ばれたことで、夕方以降、急激な円高となりました。

日経平均は金曜のマーケットが終わった後にシカゴの225先物が2000円超も暴落するなど大きな動きとなっています。

高市氏ならアベノミクス路線を継続し、円安・株高期待が高まっていただけに反動が大きく出たということでしょうか。

ドル／円はわずかに1時間程度で146円台から142円台まで急落しましたが先週初めのレートに戻っただけで驚くようなレートになったわけではありません。

また、米国株も堅調な動きとなっているため本格的なリスク回避の動きにはなっていません。

ただし、週明けも円高が止まらない場合、再び円高・株安トレンドに変化してくる可能性はあるので動きをしっかりと見ていく必要があります。

石破氏が総裁になっても基本は岸田政権の路線を継続するようなので、それほど波乱になるとは思えませんが金融所得課税が強化されるとの噂や経済政策の面で不安という声もあります。

岸田政権も発足当時、大きく日経平均が暴落したことを考えると、今回の日本株の急落もそれほど心配しなくてもいいように思います。

日本の金融政策がどうなるかの方が重要です。

石破氏は植田・日銀総裁の方針を支持しているため日本の金融政策は正常化に向かって来年以降も動くことになると思います。

日本の利上げペースは、中立金利の1%程度を目指して年内か年明けに利上げという予想ですが米国の利下げのペースがどうなるのかはわかりません。

次回の利下げ幅は0.25%の予想が多いですが、前回同様の0.5%になる可能性もあります。

今週末には米国で雇用統計があります。

8月、9月と雇用統計発表後に大きく動きが出ているため今回も乱高下に巻き込まれないようにリスク管理をしていきたいです。

そして、先週は中国が経済対策として金融緩和策を発表しましたが10月1日から1週間ほど中国は国慶節で大型連休になります。

そして、中東情勢も泥沼化してきているため海外要因で動きが出ることも想定しておきたいです。

● テクニカルで見た重要ポイントは？

<ドル／円>

今週の相場はどうなる？ 今週の相場はどうなる？

先週のドル／円は、週明けは143－145円程度をあまり方向感なく動いていましたが週末に145円を超えて一気に146.5円まで急騰し、その後急落して142円台前半でマーケットが終わっています。

142円を割り込むと140円台前半まで円高が進む可能性はあります。

下値は140円あたりを維持できれば140－145円程度のレンジ相場の動きになる可能性があります。139.5円を割り込む動きが出ると138円あたりまで下がるリスクがあります。

140円を割り込むと昨年7月の安値の137円台あたりが視野に入ってくるので注意。

<気になるクロス円>

クロス円も先週末のドル／円の急落の動きに巻き込まれて、週末に大きく下げているペアがほとんどです。

週明けはまだ下がる可能性があるのも、下げ止まるまでは買いは様子見がよさそうです。

チャートで見ると8月以降は方向感なくレンジ相場のような動きになっているペアが多く、今年前半のような勢いのある上昇トレンドは終わって停滞した動きになっています。

通貨ペアによってレンジの値幅に差があるので、どの程度のレンジを動いているのか確認してからトレードしたいです。

*クロス円とは円との通貨ペアの総称：〇〇／円というような通貨ペアのことです。

<今週のファンダメンタル？>

日本では8月鉱工業生産、7－9月期日銀短観などがあります。

米国では9月シカゴ購買部協会景気指数、パウエルFRB議長発言、9月製造業PMI(改定値)、9月ISM製造業景況指数、8月雇用動態調査(JOLTS)求人件数、9月ADP雇用統計、前週分新規失業保険申請件数、9月サービス部門・総合PMI(改定値)、9月ISM非製造業景況指数、8月製造業新規受注、9月雇用統計などが発表されます。

欧州ではユーロ圏とドイツで9月消費者物価指数、9月製造業・サービス業PMI(改定値)、ユーロ圏でラガルド・ECB総裁発言、8月卸売物価指数などがあります。

ほかには、中国で製造業PMI、英国で4－6月期GDP(改定値)の発表などがあります